

養護学校高等部における金融教育

—「仕事をする事・お金を稼ぐ事」—

金融教育の現場レポート

「金融教育」は、社会の中で生きる力を育むことを目的として行われる教育です。このコーナーでは、金融教育の授業がどのように進められているか、教育現場に立つ先生や、授業を受ける生徒の姿をレポートします。

今回は、神奈川県立平塚養護学校に赴任して3年目、「作業」の授業をテーマとして金融教育の論文を執筆された中山律子教諭に取材し、同校高等部における進路教育の取り組みについてご紹介します。

養護学校における「作業学習」 ＝「職業学習」＝

養護学校は、身体や精神、知的に何らかの障がいを抱えた子どもたちが通う教育施設です。全国的な傾向として、少子化で通常の児童生徒数が年々減少するなか、養護学校など特別支援学校・学級に入学する児童生徒数は年々増え続けています。特別支援学校である「平塚養護学校」も生徒増の例外ではありません。

平成22年度現在、知的障がい教育部門と肢体不自由教育部門に198名が在籍。今回取材した高等部には、1年生から3年生まで85名が通学しています。



この高等部の知的障がい部門では、週2日、計5時間の「作業学習」があり、生徒たちは、「陶芸」「クッキング」「木工」「農園芸」「手工芸」の5つの作業班に分かれ、モノづくりに取り組んでいます。

学習の最終目標は作ったものを、販売すること。文化祭でバザーを行うほか、パンや農作物は学内で販売しています。この学習は、生徒たちにとっ

て、社会に出るための職業教育にも直結していると言えます。

受験校から工業高校、通信制高校、課題集中校とさまざまな県立高校で国語を教えてきた中山律子教諭が平塚養護学校に赴任したのは3年前。当初は肢体に障がいのある子どもたちがぎこちない手で作業する姿を見て、「可哀想」と感じていたそうです。

「でも段々分かってきたんです。生徒たちは今まで人から世話をしてもらったことばかり。それが、自分でも何か仕事ができる、作ったモノが売られて評価される、その体験が生徒たちの自信や意識の向上、成長へと役立つのだと」。

「仕事」という意識が育ててくれるもの

「次なにやんの？もう飽きちゃったよ」

神奈川県

神奈川県立平塚養護学校
中山律子教諭



さまざまな用途が考えられた陶芸班の作品



大根を育てる園芸班の生徒



電動工具の扱いも大切な木工班



器用に機織りを使う手芸班の生徒



クッキング班のパンはとても美味しい

1年生の春、手芸作品を放り出しながら、教師にまるで級友に話しかけるような口をきき、堂々とあくびを連発していた生徒も、この「作業学習」を通じて、徐々に変化をしていくといえます。

同校のカリキュラムでは、1年生から「本当の仕事」に取り組み校内実習を体験し、「作業Ⅱ仕事」という意識を培います。仮想の会社を作り、社長、部長など役割を決めて分担し、言葉づかいから態度まで厳しい指導が行われます。なぜなら、会社は仮想であっても、行う作業は実際に企

業から委託を受けたラベル貼りなどの仕事であり、生徒たちにとっては2年生、3年生での現場実習や卒業後社会に出るための準備に直接繋がるからです。

「縫い目が曲がっているね。それで売り物になるのかな？」

「そんな言葉づかいで良かったのかな？」

“売る物”を作る仕事である以上、「よくがんばったから」では通用しな

い厳しさも教え、社会で通用する礼儀や言葉づかいも真剣に指導します。生徒たちは「作業Ⅱ仕事」として他の授業との違いを認識し、第三者を意識した行動が取れるようになります。また、分業制の中で、自分の工程でミスやいいかげんな処置をすると、次の作業工程が滞って失敗してしまうことを学びます。そうした中で、「自分が担当する仕事はきちんと最後までやり遂げなければいけない」という責任感も芽生えてくるのだといいます。

校外学習に行った先の売店で、布製のコースターを見つけた生徒が、自分が作った手芸品のコースターとの





違いを一生懸命考えている場面に遭遇して中山先生は驚いたといいます。

「自分が作ったコースターは文化祭で20円、売店のコースターは200円。どうしてこんなに値段が違うのだろうか？」と気付いたのがすごいことなんです。彼らにお金の計算をさせたり、バザーでの売上から利益計算をさせたりすることは難しい。でも、授業で何時間もかけて作った経験があったからこそ、自分の作ったコースターとお店のコースターとの商品価値を比較・検証することができた。それがこの授業の成果なのだと思えました」。

「現場実習」Ⅱ「就職」 教師の取り組み

同校が行う現場実習の受け入れ先は、将来、生徒たちの就職先にもなりません。進路担当の先生方は受け入れ先を探すために、地元企業を中心にあちこち電話をしては実習の打診を行い、良い感触があれば説明のためにすぐさま訪問するなど、教師自らが生徒と社会をつなぐ役割を果たしています。

「自宅から通勤するためにも、生徒たちは地元企業で就職できるほうがいいのです。また、中小企業の場合、

【表1】平成22年度高等部B 教科年間指導計画 神奈川県立平塚養護学校

教科名	作業 手工芸班
指導単位	たてわり 作業別グループ
実施時間	火曜2・3校時、金曜2・3・4校時
担当者	
指導目標	
<ul style="list-style-type: none"> ●長時間同じ作業をすることに慣れ、働くことの大変さと喜びを知る。 ●作業内容についての説明を聞き、適切な質問や報告ができるようになる。 ●文化祭などで売る製品であることを意識して、丁寧に作業できるようにする。 ●自分の果たすべき役割分担を意識し、自発性及び仲間と協力する姿勢を養う。 	
単元名・題材	ねらい・指導内容・方法
<縫製> ①ふきん作り ②巾着袋 ③トートバッグ ④エプロン ⑤片リュック <裂織り・カラコ(手織り機)> ①織物 <ビーズ> ①キーホルダー ②グラスホルダー ③プレスレット	①縫製の基礎を学習する。 ②作業全般 <ul style="list-style-type: none"> ●時程を明確にし、遅刻させないようにする。 ●時間内は話をしないで作業することを伝えていく。 ●丁寧さ、正確さを意識して評価していく。 ●作業ノートをつけさせ、作業に取り組む姿勢を意識させる。 ●生徒の実態に応じて、行う作業を決めていく。 ●準備や片付けの要領を覚えて、自分でできるようにさせる。 ●分担された作業についてマスターし、一人で行えるようにさせる。 主な作業項目 <ul style="list-style-type: none"> ◆糸通し、玉結び、玉どめなどの手縫いの基本 ◆しつけ ◆ロックミシン操作 ◆ミシン操作、ミシン縫い、返し縫い、糸の始末など ◆アイロンかけ、仕上げ ③就労に向けた作業態度を身につけさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ●時間を守る。 ●挨拶、返事、言葉遣いをきちんとする。 ●報告をする。 ●わからないことは聞く。 ●言われたことはきちんと行う。 ●身だしなみを整える。

合は、経営者自らが障がいへの理解や人情味を持つて、生徒の将来まで考えた長い目で見てくれることが多いです。これは先生方の並々ならぬ努力の賜と言えます。

卒業生の民間企業就職に尽力し、就職率30%を達成しようというのが県内の養護学校での目標とされるなか、同校は毎年40%以上の高

が、経営者自らが障がいへの理解や人情味を持つて、生徒の将来まで考えた長い目で見てくれることが多いです。これは先生方の並々ならぬ努力の賜と言えます。

養護学校だけでなく、 学校にもっと金融教育を

前述したように中山先生はさまざまな特徴を持つ高等学校で国語を教えてきました。教員生活30年を過ぎて養護学校に赴任したのは、

前述したように中山先生はさまざまな特徴を持つ高等学校で国語を教えてきました。教員生活30年を過ぎて養護学校に赴任したのは、



仲間と作品を写真付きで文化祭で展示



文化祭での販売も好評

目先の成果ではなく、子どもたちの数十年前先の将来を見据えた教育ができる環境を求めていることだったといえます。

「私が教員になったころは、学校の教育はお金とは無縁でした。でも、障害のない高校生でも、弱者を巧みに騙して不要なものを売りつけようとする輩の食い物にされている現実を見てきました。生徒たちは、ローンの金利や携帯電話のポケット料金だつてよく分からないまま、『お得』って言われただけですぐに飛びついて

【表2】個別教育計画 作業学習の課題一覧

全作業班の基本的な課題一覧		
項目	課題	
作業準備	出席状況	遅刻・早退・作業時間を意識できる。
	身だしなみ	作業に必要な身だしなみができる。
仕事に関して	意欲・取り組み	作業に意欲的に取り組める。
	持続力	飽きずに作業に取り組める。
	能率面	手順を守って取り組める。
	正確さ	作業に丁寧に取り組める。
	道具の使い方	適切に道具や機械を使うことができる。
	安全	安全に配慮・注意して作業に取り組める。
	仕事の理解	何回かの説明で理解できる。
	準備・片付け	準備・片付けを自発的にできる。
対人関係	挨拶・返事	きちんと自分から挨拶・返事ができる。
	報告	作業ができた時には報告ができる。 分からないことは聞くことができる。
	言葉づかい	適切な言葉づかいができる。

しまう。就職するならば給与明細の見方の学習もしなければいけないと思いますし、障がいのあるなしに関わらず、必要な知識をきちんと与えないと、社会でますます弱い立場に追い込まれていく可能性があると感じます」と、学校での金融教育の必要性を感じています。そして最後に、

「お金について考えることは、どう生きるかを考えることでもあります。生まれたときから消費者として育てきた今の子どもたちは、お金のありがたさは知っていますが、お金の怖さはよく知りません。社会に出る前に、具体的に教わる授業や機会がもっと増えていくといいですね」と締めくくってくださいました。

養護学校高等部における金融教育

—「仕事をする事・お金を稼ぐこと」—

神奈川県

神奈川県立平塚養護学校 中山律子教諭